

2019 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
分野共通の産学連携教育体制の確立に向けた調査研究
報告書 参考資料

2020 年 3 月

 株式会社三菱総合研究所

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、株式会社三菱総合研究所が実施した 2019 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

目次

A. 成果発信・普及定着を目的としたセミナー等の開催	3
A.1 成果発信セミナーにおける分野共通ガイドラインの説明資料.....	3
A.2 成果発信セミナーの参加者アンケート	16
A.2.1 アンケート票	16
A.2.2 アンケート結果.....	19
A.3 普及定着ワークショップの参加者アンケート	29
A.3.1 アンケート票	29
A.3.2 アンケート結果.....	31

A. 成果発信・普及定着を目的としたセミナー等の開催

A.1 成果発信セミナーにおける分野共通ガイドラインの説明資料

「専修学校版『デュアル教育』の分野共通ガイドライン」のポイント

2019年11月

 **株式会社三菱総合研究所**
科学・安全事業本部 主任研究員 山野 宏太郎

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.



株式会社三菱総合研究所

本事業の概要

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

2

デュアル教育とは？

「若年者向けの実践的な教育・職業能力開発の仕組みとして、企業での実習と学校での講義等の教育を組み合わせることで実施することにより若者を一人前の職業人に育てる仕組み」を「実務・教育連結型人材育成システム(日本版デュアルシステム)」と記載。

(出所)文部科学省、厚生労働省、経済産業省、内閣府「若者自立・挑戦プラン」(2003年6月)

「実務と教育が連結した実践的な人材育成システム」を「デュアル教育」と呼ぶ。

(出所)文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(2004年1月)

「専修学校版デュアル教育」とは・・・。

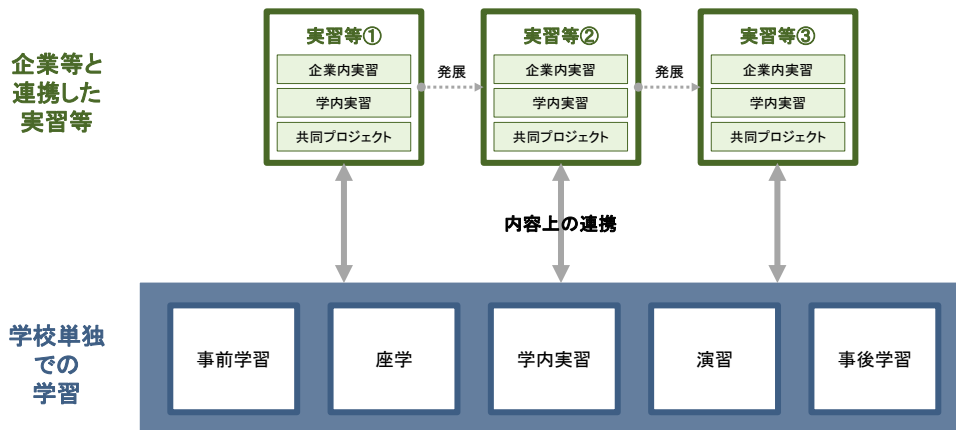
- 専修学校側が主導的に設計・運営すること
- 職業能力育成を目的として職業現場での実務(実習)と学校教育(講義)が連携していること
- 実務(実習)が学生の専門性や進路と関連していること
- 実務(実習)においては企業等の強いコミットが存在すること など

を特徴とする教育プログラム。

(出所)文部科学省「分野共通ガイドライン」(2019年3月)

「専修学校版デュアル教育」のカリキュラムの基本的構造

「専修学校版デュアル教育」では、企業等と連携した実習等と学校単独での学習の内容上の連携を図ったカリキュラムが基本となる。



本事業の目的

中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
(平成23年1月)

- 職業教育の観点からの職業実践的な学習活動が、教育機関だけでなく、**地域や産業界の各種団体をはじめとする社会と連携・協力した人材育成**という観点から推進されることが重要である。

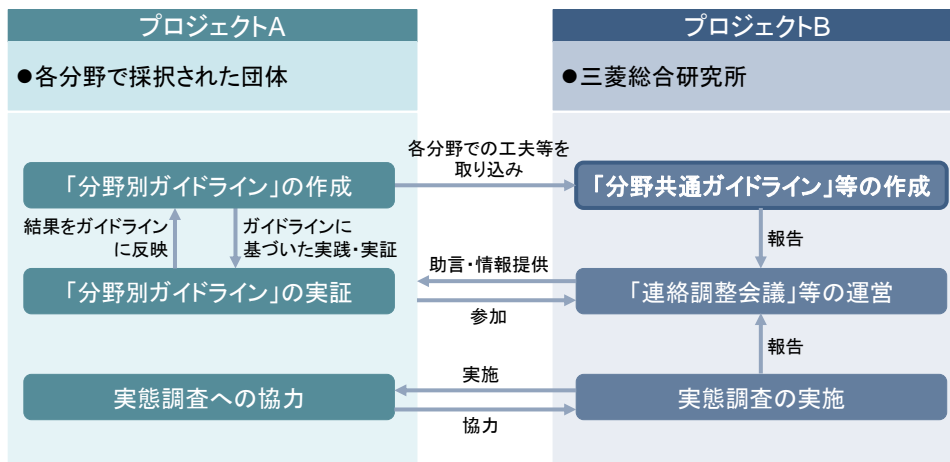
「職業実践専門課程」の認定開始(平成26年度)

- 文部科学大臣認定制度として、企業等との組織的な連携強化に関する取組を推進。
- しかし、**専修学校による企業等との連携はまだ手探り状態**で、取組内容・水準は学校によりまちまち。

- 企業等と連携して実施する「デュアル教育」の**導入・実践の方法を開発**する。
- その方法論を**ガイドラインとして見える化**し、全国の専修学校での活用いただくことで、デュアル教育の普及・定着させる。

事業の構成

- 各分野で採択された団体が「分野別ガイドライン」を作成・実証。
- 当社は、その支援等を行うとともに、分野共通の要素を整理した「分野共通ガイドライン」を作成。



採択団体とその分野

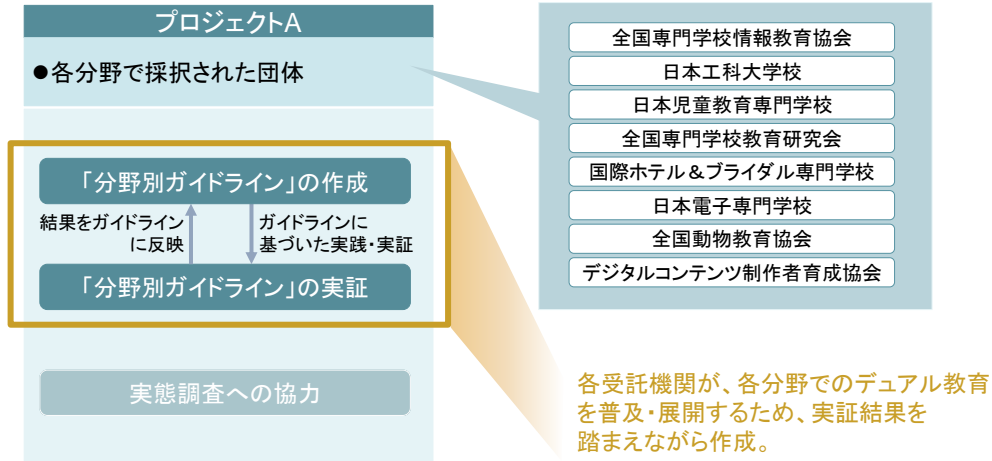
- 文部科学省により採択された機関は下記のとおり。

採択機関	職業領域	事業期間
全国専門学校情報教育協会	IT(企業内実習)	2016年度～2018年度 (既に終了)
日本工科大学校	建設	
日本児童教育専門学校	保育	
全国専門学校教育研究会	医療事務	
国際ホテル&ブライダル専門学校	ホテリエ	
日本電子専門学校	IT(学内実習)	2017年度～2019年度 (今年度まで)
全国動物教育協会	動物看護	
デジタルコンテンツ制作者育成協会	デジタルコンテンツ	

「分野別ガイドライン」のご紹介

「分野別ガイドライン」とは？

- 各分野でデュアル教育実施を検討する関係者に対して、デュアル教育の導入・実施における、手順・留意事項等を整理したもの。
- 記載している手順・留意事項等は実証により検証されたものが記載されている。



Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

9

【IT分野】全国専門学校情報教育協会

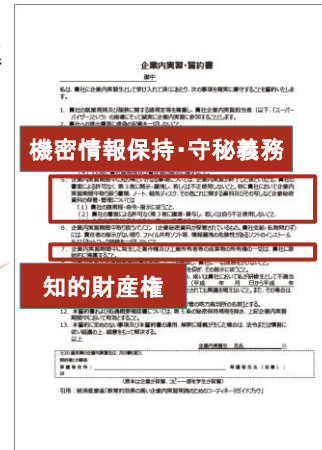
本ガイドラインの目的

- IT人材確保が重大な課題となっている状況下における、実践的な教育の実現、及び人材育成のスピードアップ
- 企業内実習の機会を活かした学生のキャリア支援促進

本ガイドラインの特長(例)

- 機密情報の扱いや、知的財産権の扱いに関する整理・書面準備
- 座学・実習を組み合わせたキャリア教育を実現する授業モデルの提示

IT分野の企業内実習で企業－学生間で事前に取り交わしておかなければならない条項を盛り込んだ誓約書が予め準備されている。



企業内実習 誓約書

(出所)文部科学省「IT分野における『専修学校版デュアル教育』ガイドライン(学校版)」(2019年3月)

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

10

※図の赤い図形はガイドラインを基に作成者が追記

【建設分野】 日本工科大学校

本ガイドラインの目的

- 内発的動機付けや主体性を重視することによる、多面的学修と深い理解
- 建設業界において発生している、若年層の雇用のミスマッチ防止

本ガイドラインの特長(例)

- 性質の異なる職種ごとにガイドラインが作成されている。
- 実習前の安全教育や、実習中の安全管理といった、実習における安全性の徹底



(出所)文部科学省『専修学校版デュアル教育』建設分野ガイドライン(Ⅰ.設計編/Ⅱ.施工編/Ⅲ.大工・左官編)
Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc. 11 (2019年3月)

【ホテリエ分野】 国際ホテル&ブライダル専門学校

本ガイドラインの目的

- 多岐にわたるホテリエ業務の総合的理解による、ヒューマンスキルの高いホテリエの育成

本ガイドラインの特長(例)

- ルーブリックによる学生の評価
- 動画教材を使った事前学習による、基礎的知識・技能の理解



(出所)文部科学省『専修学校版デュアル教育』分野別ガイドライン(ホテリエ分野):動画『ホテリエとしての基本マナー』(2019年3月)

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

12

「分野共通ガイドライン」のご紹介

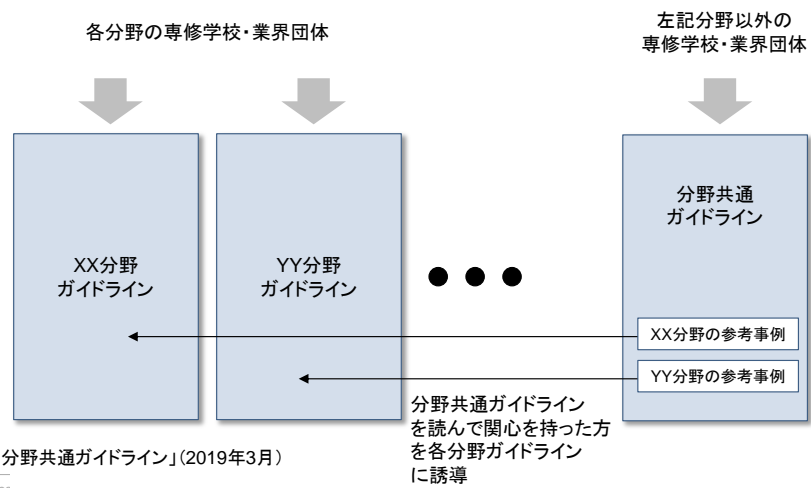
Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

13

「分野共通ガイドライン」の位置づけ

デュアル教育実施を検討する関係者に対して、以下の情報を提供するもの。

- デュアル教育の導入・実施における、分野共通的な手順・留意事項等を整理。
- 各項目にでの参考事例やTips、教育支援ツールを紹介。



(出所)文部科学省「分野共通ガイドライン」(2019年3月)

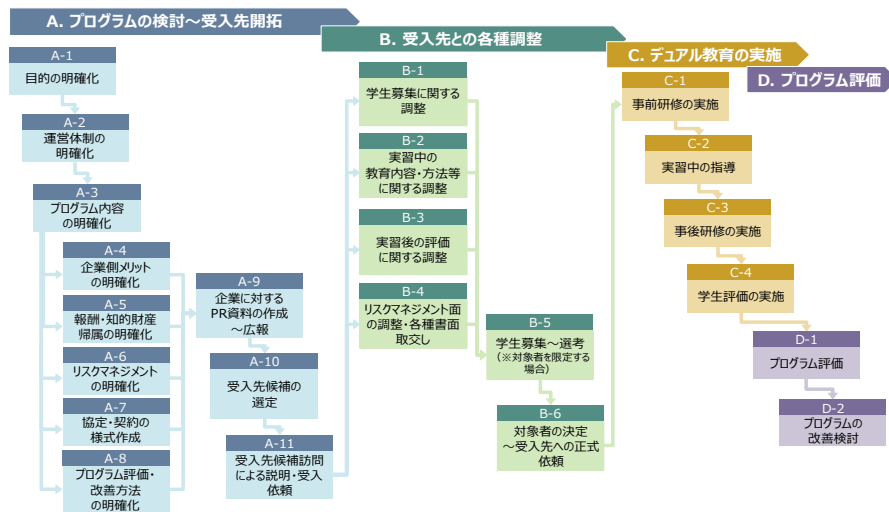
Copyright (C) Mitsubishi Res

「分野共通ガイドライン」の全体構成

- 1. 本ガイドラインの概要
 - 1.1 専修学校教育における課題認識
 - 1.2 本ガイドラインの趣旨・目的
 - 1.3 デュアル教育の一般的な定義
 - 1.4 デュアル教育の特徴・種類
- 2. デュアル教育を実施する上での留意事項
 - 2.1 デュアル教育企画・実施のタイムライン
 - 2.2 デュアル教育の企画(Plan)
 - (1) 目的の明確化
 - (2) 教育目標および教育内容・方法の明確化
 - (3) 役割分担(負担)の明確化
 - (4) 学生に対する報酬・知的財産の帰属
 - (5) 実施上の協定・契約の締結
 - (6) リスクマネジメント
 - 2.3 デュアル教育の実施(Do)
 - (1) 受入企業の開拓
 - (2) 希望学生と受入企業のマッチング
 - (3) 学生の受入体制整備
 - (4) 企業内実習
 - (5) 企業内実習前／企業内実習後の教育
 - (6) 学生の評価
 - 2.4 デュアル教育の評価(See)
 - (1) プログラムの評価方法
 - (2) プログラムの改善方法
- 参考資料
 - デュアル教育実践事例集
 - デュアル教育支援ツール集

「分野共通ガイドライン」のポイント①:デュアル教育企画・実施のタイムライン

- デュアル教育を企画・実施していくに当たって検討・取り組むべき事柄を時系列的に整理。



「分野共通ガイドライン」のポイント①:デュアル教育企画・実施のタイムライン

デュアル教育企画・実施のタイムラインにおける各項目の詳細(一部)

作業項目	内容	本ガイドラインにおける参照箇所	
プログラムの検討～受入先開拓			
A-1	目的の明確化	教育課程全体の中でのプログラムの位置づけ・目的を明確にする。	2.2 (1) 目的の明確化
A-2	運営体制の決定	学校内の実施体制を明確にする。	2.2 (2) 教育目標および教育内容・方法の明確化
A-3	プログラム内容の明確化	対象学年、実施時期、実施期間、必修・選択の別、単位数、シラバスの内容、成績評価方法、経費面を明確にする。	2.2 (2) 教育目標および教育内容・方法の明確化
A-4	企業側メリットの明確化	企業のメリットを明確にする。なお、このメリットは企業とのコンセンサスとして共有する。	2.2 (3) 役割分担(負担)の明確化
A-5	報酬・知的財産帰属の明確化	学生に対する報酬の有無や、知的財産権の帰属について、学内で検討を行い明確化する。ここでの検討結果は、後で企業と調整を行う。	2.2 (3) 役割分担(負担)の明確化
A-6	リスクマネジメントの明確化	守秘義務に関する考え方や、怪我や事故、損害等に対応する保険等の決定を行う。	2.2 (4) 学生に対する報酬・知的財産の帰属
A-7	協定・契約の様式作成	実習中の学生の職場放棄や、企業等の経営事情により実習の継続困難、A-6などを想定し、協定・契約の様式を作成する。	2.2 (6) リスクマネジメント
A-8	プログラム評価・改善方法の明確化	明確化した目的等の達成度を評価する方法と、その評価を踏まえた改善方法を明確化する。	2.2 (5) 実施上の協定・契約の締結
A-9	企業に対するPR資料の作成～広報	本プログラムを企業に説明する際のPR資料を作成する。	2.4 (1) プログラムの評価方法
A-10	受入先候補の選定	プログラムの目標が達成できる受入先企業を、教育効果や受入可能性を考慮しながら選定する。	2.4 (2) プログラムの改善方法
A-11	受入先候補訪問での受入依頼・説明	受入先候補に対し、電話等でのアポイントメントをとり訪問する。その際、よく聞かれる質問は事前に準備しておく。	2.3 (1) 受入企業の開拓

「分野共通ガイドライン」のポイント②:目的の明確化

■【専修学校】

- デュアル教育を実施する目的について、**専修学校だけでなく、連携する企業等、参加する学生それぞれのメリットを明確にする。**また、その内容を関係者のコンセンサスとして共有する。なお、職業実践専門課程を設置する専修学校においては、前述のとおり**教育課程編成委員会を活用することも有効**である。

■【企業等】

- デュアル教育に参加する目的について、**人事部・事業部等の関係する社内各部門で共有**する。直接デュアル教育に関わる担当者だけでなく、その上長との間でも目的を共有し、デュアル教育に参加する**担当者が適切に企業内で評価**されるよう配慮しておく。

	○ デュアル教育のメリット	× デュアル教育のデメリット
専修学校	<ul style="list-style-type: none"> 不足していた実践的教育の充実。 企業との相互理解。 学生の就職の促進。 企業連携を通じた教員の能力向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業との連絡調整、学生支援・教育等の負荷の増加。 学校外での実習における評価が困難。
企業等	<ul style="list-style-type: none"> 意欲・能力ある学生の発掘・採用。 企業ニーズに沿った人材の育成。 社員の能力・意識向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生受入に伴う負担増。 目に見える成果につながりにくい。 学生によるトラブル・事故のリスク。

「分野共通ガイドライン」のポイント②: 目的の明確化

支援ツール

デュアル教育プログラム設計書

充実したデュアル教育を構築・実施するには、当該プログラムに関わるプレーヤー間で教育目的・目標を共有し、核となる教育内容を十分に理解しながら検討を進めることが前提となる。しかし、デュアル教育は多数・多様なプレーヤーが関係するだけでなく、検討すべき事項も多く、その一つ一つをプレーヤー間で正確に把握・共有することは容易ではない。また、学校外の機関（例えば実習の受入先機関候補）に協力を求める際には、デュアル教育の概要やメリットを効率的に伝えることが必要とされる。

上記のように、デュアル教育に関する円滑な情報共有・伝達のためには、そのポイントを端的に整理した「デュアル教育プログラム設計書」を用意しておくことが有効である。また、こうした設計書を準備しておけば、その後の様々な検討プロセスの中でも、常に設計書に立ち返ることでプログラム全体の整合性を常に保つことが可能となる。

デュアル教育プログラム設計書(一部)

プログラムの各要素	具体的な内容・ポイント
名称	-当該プログラムの名称を記載
現状・課題把握	外部環境(産業・経済状況、人材市場等) 【1:1節】 -当該分野の外部環境(産業・経済状況、人材市場等)の現状・課題を明確化する。 内部環境(専修学校教育) 【1:1節】 -当該分野における教育・人材育成の現状・課題(特に専修学校教育の現状・課題)を明確化する。 注:「先ず学生」は「先ず企業」を前提としたもの。当該プログラムの目的は「デュアル教育」内の中
教育内容のポイント	■ 企業等の専修学校外での実習 □ 専修学校と企業等による共同プログラムでの実習 -実習内容について、以下の要素を明記。 -実習期間中の基本的な学習スタイル(実習と学校での授業等の関係・バランス、スケジュール) -実習の具体的な内容 -専修学校および受入機関それぞれによる、学生への指導・支援方法。 フォロー 【2:3節、3:3(5)】 -実習の振り返り、自身の課題発見、成果報告等、実習後に実施する主要な活動内容を示す。 注:事前準備→実習→フォロー→成果物作成の順でプログラムを構築した学生の認識が伝わるように示す。
成果物の構築	【2:2(3)】 -実習等において、学生が関与した成果物や学生・企業等との共同成果物に関する知財の帰属について示す。
その他	リスクマネジメント 【2:4(5)】 -学生の実習等で想定される各種リスク(実習中の事故、情報漏洩、ハラスメント、学生のサボタージュ等)を整理し、各リスクの対策を示す。 (例:保険への加入、秘密保持契約、コンプライアンスに関するガイダンス等) その他特記事項 【注、他】 -上記以外で特に関係者が留意すべき事項(当該分野特有の問題等)があれば記載。

Tips

ルーブリックを用いた教員内における実習目的の合意形成

ルーブリック(学習到達度表)を用いることで、教員内で暗黙となっていた実習目的について議論を行い、合意形成を行うことができる。

実習の目標は何か、どの程度を目標とするのかについて、しばしば教員ごとに考えが異なっている。日本児童教育専門学校では、ルーブリック自体がそのまま実習に活用されたわけではないけれども、ルーブリックの項目や、水準について様々な議論がなされることで、これまでは暗黙知となっていたデュアル教育や実習の目的について、教員内での合意形成がなされた。

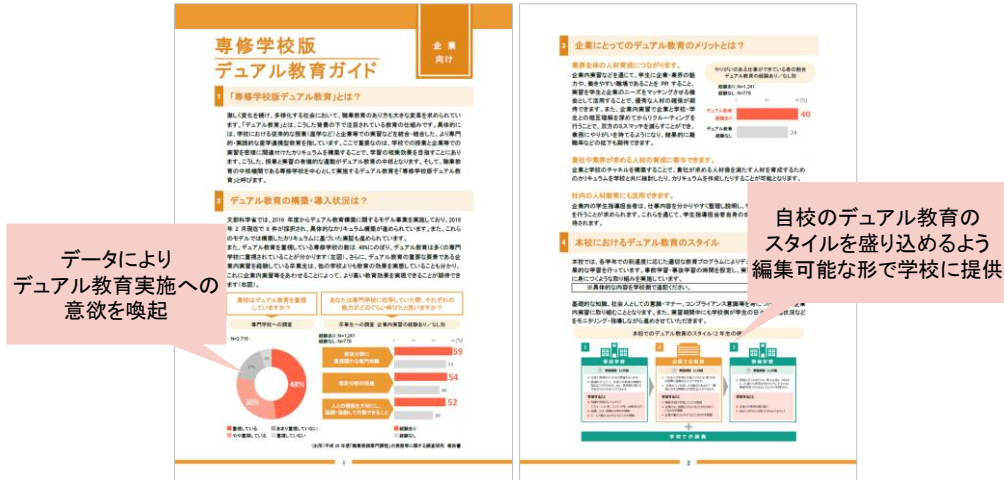
(出所) 日本児童教育専門学校にヒアリング調査のうえ、三菱総合研究所作成

「分野共通ガイドライン」のポイント③: 受入企業の開拓

- 専修学校と企業等の双方にとってメリットのある「連携」を目指す。
- 企業側メリットをアピールして理解・協力を得るため、企業向けのPR資料等を作成。
- 以下の既存ネットワークを活用し、訪問や電話、パンフレット類の配布・送付等の方法で受入れ依頼を行う。
 - 教師・講師の派遣を受けている企業等
 - 卒業生が就職している企業等
 - インターンシップ学生の派遣実績がある企業等
 - 継続的に関係・交流のある産業団体、職能団体
 - 地方公共団体の労働部局等
 - 受入先の開拓・マッチングを実施している外部団体の情報
- コンタクトした企業等に訪問・説明を行う。質問される可能性の高い以下の事柄は事前に準備・検討しておく。
 - 何をさせればよいか
 - どういう学生が来るのか
 - 経費・報酬の負担はあるか
 - 守秘義務は大丈夫か
 - 怪我や事故等に対応する保険は大丈夫か
 - 就職との関係どうか
 - 受入にはどのようなメリットがあるのか

「分野共通ガイドライン」のポイント③: 受入企業の開拓

- 分野共通的に利用可能な、企業向けのPR資料を準備。
- 編集可能な形で提供しているため、各校の状況に合わせたカスタマイズが可能。



(出所) 文部科学省「分野共通ガイドライン: 専修学校版デュアル教育ガイド(企業向け)」(2019年3月)
Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc. 21 ※吹出し部は作成者にて追記

「分野共通ガイドライン」のポイント③: 受入企業の開拓

参考事例 複数の学校間で受入先企業リストを共有。

中国・四国地域におけるインターンシップはこれまで各大学の所在地である県内を中心に行っていたが、出身地での就職を希望する学生と人材の確保が困難な中小企業間にミスマッチが生じていた。そこで、文部科学省の補助事業「中国・四国圏域での産官学協働によるインターンシップ等の推進」を契機に、地元12大学は産業界等との協働による相互乗り入れによる各県域を越えたインターンシップの連携体制を確立、受入れ企業及び参加学生の増加を図るとともに、中国・四国地域全体へのインターンシップの普及・定着を促進した。

(出所) [7]に基づき作成。

参考事例 実習先の新規開拓。

アップルスポーツカレッジの実習の連携先は、地元のスポーツチームやスポーツショップ、学校等、80か所以上である。実習先の多くは、教職員が各学科の専門内容に関連する企業を選定した上で、受け入れてくれる企業を開拓している。

具体的な実習内容は受入先により異なるが、例えば、スポーツショップの市場調査を実施してプレゼンテーションを行ったり、スポーツチームに帯同してトレーナーの補助を行ったり、国際大会の運営補助を行ったりしている。実習頻度は学科や受入先によって異なるが、トレーナー業務では週3回、スポーツビジネス科では週2回実施している例が多い。スポーツビジネス科の受入先から、ある程度まとまった時間をとってほしいとの意見が寄せられたため、実習日は朝から夕方までスポーツショップ等で就業することとした。

(出所) [8]に基づき作成。

「分野共通ガイドライン」のポイント③: 受入企業の開拓

Tips

商工会議所との連携による受入企業の開拓・調整に係る負担の軽減^①

受入企業の開拓や調整は学校側が負担を感じる点の一つであるが、この負担を軽減するための一つの方法として、商工会議所や業界団体との連携が考えられる。^②

桑名工業高等学校では、桑名商工会議所を交えて懇談会を開催した際に「現場を見てみたい」という要望を行ったことをきっかけに、桑名商工会議所との連携のもと「産業現場実習」を行っている。この連携では、受入企業の開拓や、受入企業との仲介の役割を商工会議所が担い、学校・企業・商工会議所が三者一体となったデュアルシステムを構築している。これにより、2、3年生では週1日、年間を通して実習を行えるようになってきている。^③

(出所) 一般社団法人中部経済連合会「中部だより」(2019年1月閲覧)

(<http://www.chukeiren.or.jp/magazine/pdf/chubudayori%20201709.pdf>)^④

Tips

学校間の連携先企業に関する情報共有^①

学校間の連携先企業等を共有することで、個々の学校において連携先企業の開拓にかかる負担を軽減することが可能になる。^②

学校内実習の企業講師の開拓の取組として、日本電子専門学校と船橋情報ビジネス専門学校は、各校が過去に連携していた企業を相互に紹介し、相互の学校が紹介した企業の講師による学校内実習を行っている。こうした取り組みが、各学校での実習の内容を多様化し学生の満足度を高めることができるのみならず、連携先企業開拓のための学校側の負担軽減、及び、学校間のコミュニケーション活性化につなげることができる。^③

(出所) 日本電子専門学校にヒアリング調査のうえ、三菱総合研究所作成^④

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

「分野共通ガイドライン」のポイント④: 企業内実習等

■【専修学校】

- 企業等が主体となって行われる実習等についても、**専修学校が実習内容について積極的にコミット**する。具体的には「教育課程」として意図した教育効果が得られるよう以下の内容を専修学校として設計する。
 - 実習等の具体的内容
 - 学生指導方法・指導体制
 - 専修学校側の事前／事後教育との連携

■【企業等】

- 企業等が主体で行われる実習等においては、当該分野における**専門資格が必要となる業務内容を明確にし、その内容について学生が実施しないよう注意**する。また**資格が必要とされる業務内容とその理由について学生に明確に指導**する。

参考事例 長期間の実習^①

新潟農業・バイオ専門学校の農業経営科(2年制)では、同校の学校法人グループである国際総合学園が新潟市より指定管理を委託しているアグリパーク(公立教育ファーム)にて、農業基礎総合実習(1年次・6単位・192時間)を実施している。実習期間は4月-11月の8ヶ月間である。特に野菜の栽培分野では、土づくりから刈り取りまでを一つの流れとして体験する必要があるため、長期間の実習が必要不可欠であると考えている。実習は農家の方の協力を仰ぎつつ、指導している。季節によって栽培作業が変わっていくので、それに合わせて実習内容も変えている。^②

その他にも、アグリパークでは小学生の農業体験プログラムを実施しており、新潟農業・バイオ専門学校の学生は、実習の一環としてサポートに入ることで、様々な年齢層の人達と触れ合うことができる。小学生への対応等は、アグリパークの各担当インストラクターが指導している。^③

(出所) ①②に基づき作成^④

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

「分野共通ガイドライン」のポイント④：企業内実習

支援ツール

デュアル教育ルーブリック

教育目標として掲げた知識・スキルがデュアル教育での程度育成されたか評価するための一つのツールとしてルーブリックがある。教育の現場で用いられるルーブリックとは、左列に評価指標(デュアル教育の教育目標として挙げた知識・スキルの項目)と、上の行に評価指標に即した評価基準(知識・スキルの習得度を表すレベル)が書かれた配点表(下図)のことを指す。評価指標と評価尺度に囲まれたセルには、それぞれの評価指標ごとにどの程度達成できればどのくらいの評点を与えるかのパフォーマンス(行動や内容)の特徴が記述される。これを用いた学習評価方法をルーブリック評価と呼ぶ。

評価指標と評価基準により達成水準が明確になることから、ペーパーテストでは評価が困難な「関心・態度」「技術・技能」等のスキル評価に向くとされ、インターンシップやグループ活動の自己評価・他者評価等に用いられている。ルーブリックのメリットは、評価者の評価に要する時間が短くなること、評価のぶれが少なくなり評価の一貫性・公平性が確保されること、知識・スキルの修得状況が正確に把握でき学生指導に活用できること等が挙げられるが、最大のメリットは教育を通じた達成目標が明確化され学校・学生そして企業等との間の教育目標が共有可能となることである。

支援ツール

デュアル教育eポートフォリオ

デュアル教育の質向上・質保証を行うためには、企業等と連携して行う実務(実習)パートにおいても、通常の専修学校授業と同様にどのような学習・指導が実施されているかエビデンスを残すことが重要である。実習時の学習・指導履歴を残すことは、ペーパーテストだけで評価することが難しい職業能力を学習・指導履歴データ等の記録をもとに学習プロセス全体を通じて多面的に評価する上でも有効である。

このような背景から、学生の「学び」に関わるあらゆる記録をデジタル化して残すシステム(eポートフォリオ)の導入が教育機関で進んでおり、デュアル教育においてもそのようなeポートフォリオの活用が期待される。ただし、大規模なITシステム導入が目的ではなく、通常オフィスで用いているITツールや紙媒体での履歴保存も組み合わせながら各機関で費用対効果の高い学習・指導履歴を蓄積する仕組みを構築することが期待され、例えば表計算ソフトで下図のような学習・指導記録シートを残すことから始めることも有効である。

参考図表：学習・指導履歴シートの例

ルーブリックのイメージ

評価尺度(評価基準)	評価尺度(評価基準)			
	4	3	2	1
学習の態度(関心・態度)	学習の態度(関心・態度)が非常に優れている。授業中の発言や質問が積極的であり、授業の進捗に大きく貢献している。	学習の態度(関心・態度)が優れている。授業中の発言や質問が積極的であり、授業の進捗に貢献している。	学習の態度(関心・態度)が普通である。授業中の発言や質問が積極的ではないが、授業の進捗に貢献している。	学習の態度(関心・態度)が普通である。授業中の発言や質問が積極的ではないが、授業の進捗に貢献している。
授業の理解(知識)	授業の内容を非常に深く理解している。授業中の発言や質問が積極的であり、授業の進捗に大きく貢献している。	授業の内容を深く理解している。授業中の発言や質問が積極的であり、授業の進捗に貢献している。	授業の内容を普通程度理解している。授業中の発言や質問が積極的ではないが、授業の進捗に貢献している。	授業の内容を普通程度理解している。授業中の発言や質問が積極的ではないが、授業の進捗に貢献している。
プロジェクト・活動(実践)	プロジェクト・活動の遂行に非常に積極的であり、チームのリーダーシップを発揮している。プロジェクト・活動の進捗に大きく貢献している。	プロジェクト・活動の遂行に積極的であり、チームのリーダーシップを発揮している。プロジェクト・活動の進捗に貢献している。	プロジェクト・活動の遂行に普通程度積極的であり、チームのリーダーシップを発揮している。プロジェクト・活動の進捗に貢献している。	プロジェクト・活動の遂行に普通程度積極的であり、チームのリーダーシップを発揮している。プロジェクト・活動の進捗に貢献している。
職業上の倫理	職業上の倫理を非常に深く理解している。授業中の発言や質問が積極的であり、授業の進捗に大きく貢献している。	職業上の倫理を深く理解している。授業中の発言や質問が積極的であり、授業の進捗に貢献している。	職業上の倫理を普通程度理解している。授業中の発言や質問が積極的ではないが、授業の進捗に貢献している。	職業上の倫理を普通程度理解している。授業中の発言や質問が積極的ではないが、授業の進捗に貢献している。

本事業における成果物(リンク集)

本日ご紹介した採択機関の成果物は以下からご覧いただけます。

採択機関	分野	事業サイトのURL
全国専門学校情報教育協会	IT(企業内実習)	https://it.30monka-itaku.net/it-guideline/
日本工科大学校	建設	http://dual-education.jp/30endo.html
日本児童教育専門学校	保育	https://jje.ac.jp/news/8911
全国専門学校教育研究会	医療事務	http://www.zsenken.or.jp/monka-itaku/index.html
国際ホテル&ブライダル専門学校	ホテリエ	http://dual-hotelier.com/
日本電子専門学校	IT(学内実習)	https://www.jec.ac.jp/dual/h30/index.html
全国動物教育協会	動物看護	http://www.zendoukyou.com/
デジタルコンテンツ制作者育成協会	デジタルコンテンツ	http://www.dcc-a.com/dchp/

A.2 成果発信セミナーの参加者アンケート

A.2.1 アンケート票

次のページに福岡会場のアンケート票を掲載する。なお、東京会場は、福岡会場と一部の講演者の所属校が異なるため、その点の表記のみ異なるが、設問項目や選択肢は同様である。

福岡会場

「産学連携による実践的職業教育の質向上にどう取り組むか
～先進事例から学ぶ専修学校版「デュアル教育」の意義と方法」アンケート

セミナーの内容について

問1 各講演の内容はいかがでしたか。(各行で当てはまるもの1つに○)

(5. 大変参考になった ～ 1. 全く参考にならなかった の5段階でお答えください。)

「専修学校版『デュアル教育』の共通ガイドライン」の ポイント (株式会社三菱総合研究所)	5	4	3	2	1
「専修学校版デュアル教育(保育分野ガイドライン)～現場と学校で学生を “ともに育てる”～」(日本児童教育専門学校)	5	4	3	2	1
「体系的な教育設計による業界連携教育モデルおよびその実施事例」 (エルケア医療保育専門学校)	5	4	3	2	1
パネルディスカッション	5	4	3	2	1

問2 総合的にみて、本セミナーの内容はいかがでしたか。(当てはまるもの1つに○)

大変参考になった	参考になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった
5	4	3	2	1

問3 デュアル教育への理解・関心を高めるという観点から、本セミナーの改善点等をお答えください。

--

デュアル教育への関心について

問4 本セミナーに来ていただく前から、デュアル教育について、ご存知でしたか。

(当てはまるもの1つに○)

1	(学校関係者様の場合、)既に自校で行っている。
2	内容まである程度知っていた。
3	名前は聞いたことがあるが、内容までは知らなかった。
4	全く聞いたことがなかった。

問5 本セミナーにより、デュアル教育について理解が深まりましたか。(当てはまるもの1つに○)

←セミナーに来る前に比べ、よく理解できた	セミナーに来る前と変わらなかった→			
5	4	3	2	1

問6 【問4で2・3・4に○を付けた、学校関係者様にお伺いします。】

本セミナーにより、デュアル教育を行ってみようと思われましたか。(当てはまるもの1つに○)

←セミナーに来る前に比べ、行いたいと思った	セミナーに来る前と変わらなかった→			
5	4	3	2	1

福岡会場

問7 【学校関係者様にお伺いします。】

本日紹介した事例や「分野共通ガイドライン」「分野別ガイドライン」等の内容の中で、今後、貴校に取り入れたいと思った取り組みや工夫があれば、ご記入ください。

問8 専修学校において、デュアル教育への理解・関心の増進や普及・定着を進めるには、どのような情報提供や支援が必要だと思いますか。

(例：教員向け研修会の実施、デュアル教育の推進事例の蓄積・発信 等)

ご自身について

問9 あなたのご所属機関名をご記入ください。

問10 あなたのご所属について、あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)

1	専修学校（役員）※理事、校長等	7	高等専門学校
2	専修学校（教員）※役員以外	8	企業（教育関連）
3	専修学校（職員）	9	企業（教育関連以外）
4	就学前教育機関・小中高等学校	10	行政
5	高等学校	11	その他
6	大学		(具体的に：)

問11 【問10で1～7のいずれかに○をつけた方（学校関係者の方）にお伺いします。】

あなたのご所属部署について、関係の深い分野に○をつけてください。(○はいくつでも)

※分野横断的部署の場合(経営者や事務部門等)、学校が有する分野全てに○をつけてください。

1	IT、ゲーム	8	理容、美容、エステ
2	電気・電子	9	保育、幼児教育
3	自動車整備	10	社会福祉、介護福祉
4	土木・建築	11	商業実務（経営、経理、観光、秘書）
5	農業、園芸、動物	12	服飾家政
6	医療	13	文化・教養（デザイン、音楽、語学、公務員）
7	調理、製菓、製パン、栄養	14	その他（具体的に：)

その他

問12 本セミナーの感想や、ご要望等ございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。出口でスタッフにお渡しください。

A.2.2 アンケート結果

(1) 問 1：各講演の内容はいかがでしたか。

<福岡会場>

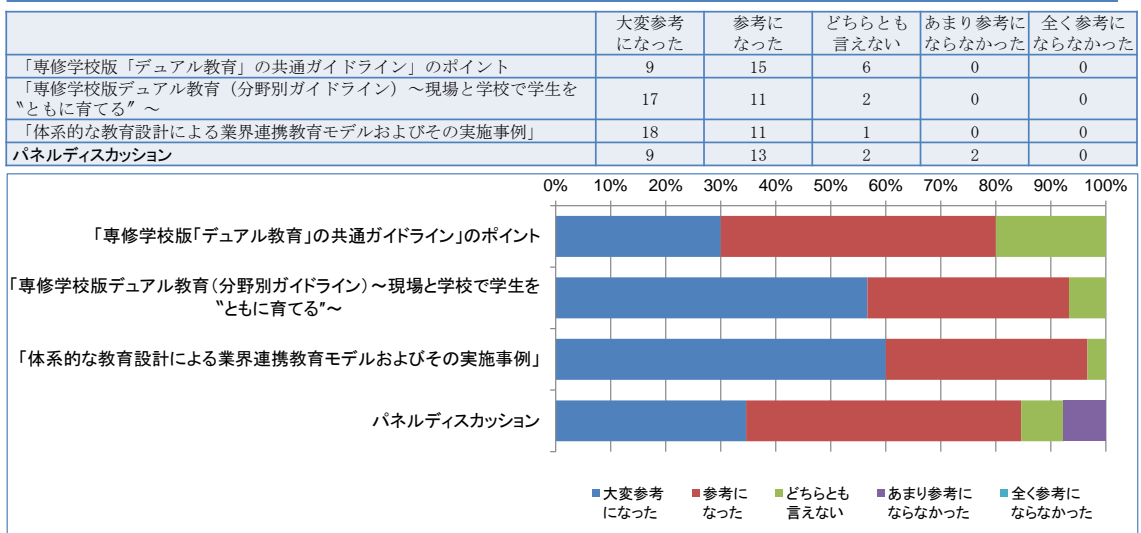


図 A-1 セミナーにおける各プログラムの満足度（福岡会場）

<東京会場>

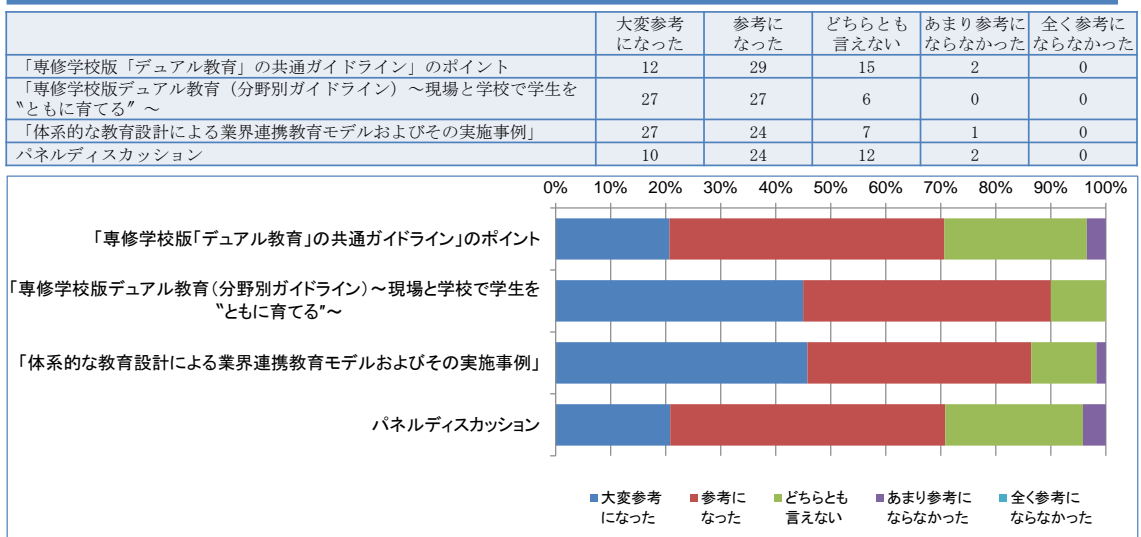


図 A-2 セミナーにおける各プログラムの満足度（東京会場）

(2) 問 2：総合的にみて、本セミナーの内容はいかがでしたか。

<福岡会場>

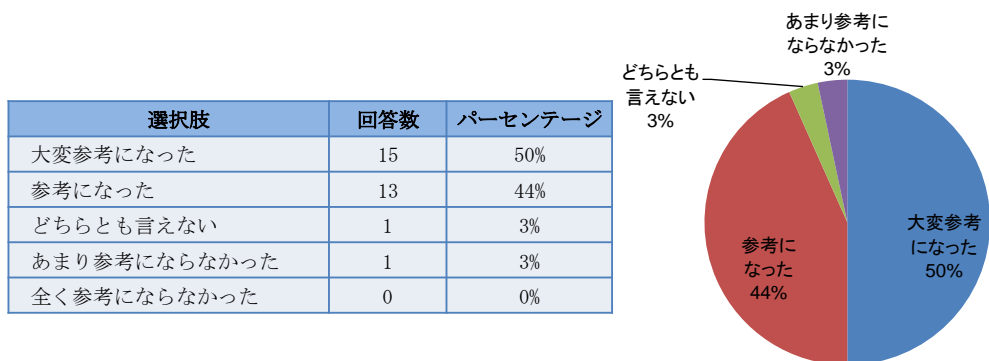


図 A-3 セミナー全体の満足度（福岡会場）

<東京会場>

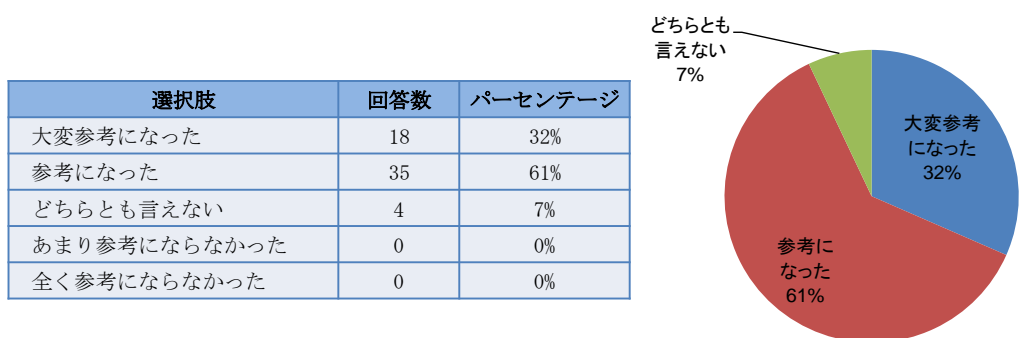


図 A-4 セミナー全体の満足度（東京会場）

(3) 問 3：デュアル教育への理解・関心を高めるという観点から、本セミナーの改善点等をお答えください。

<福岡会場>

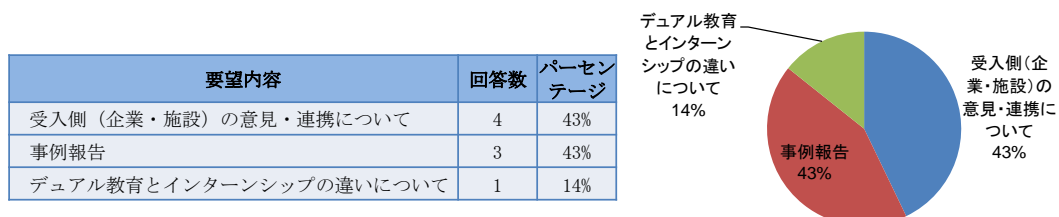


図 A-5 セミナーの改善点等（福岡会場）

<東京会場>



図 A-6 セミナーの改善点等（東京会場）

(4) 問 4 : 本セミナーに来ていただく前から、デュアル教育について、ご存知でしたか。

<福岡会場>

選択肢	回答数	パーセンテージ
(学校関係者様の場合、) 既に自校で行っている。	12	40%
内容まである程度知っていた。	6	20%
名前は聞いたことがあるが、内容までは知らなかった。	7	23%
全く聞いたことがなかった。	5	17%

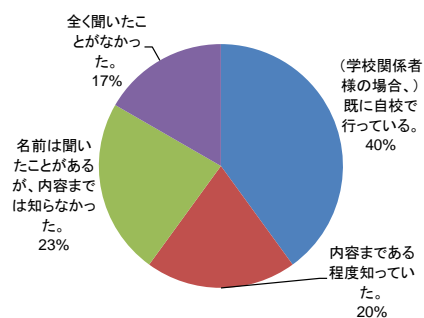


図 A-7 デュアル教育の認知度 (福岡会場)

<東京会場>

選択肢	回答数	パーセンテージ
(学校関係者様の場合、) 既に自校で行っている。	19	32%
内容まである程度知っていた。	21	35%
名前は聞いたことがあるが、内容までは知らなかった。	8	13%
全く聞いたことがなかった。	12	20%

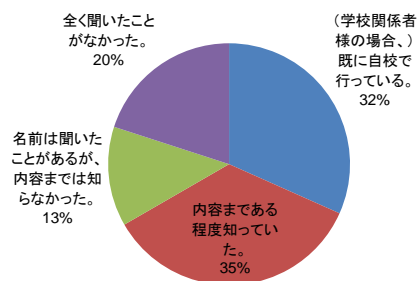


図 A-8 デュアル教育の認知度 (東京会場)

(5) 問5：本セミナーにより、デュアル教育について理解が深まりましたか。

<福岡会場>

←セミナーに来る前に比べ、
良く理解できた。

セミナーに来る前と→
変わらなかった。

レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
14	13	1	2	0
47%	43%	3%	7%	0%

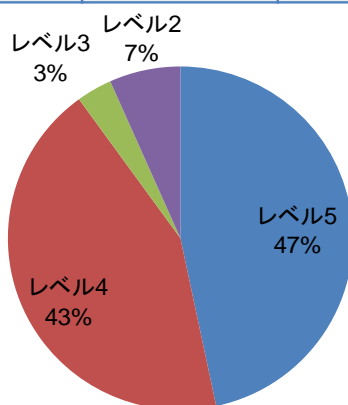


図 A-9 セミナーによるデュアル教育に関する理解深化の程度（福岡会場）

<東京会場>

←セミナーに来る前に比べ、
良く理解できた。

セミナーに来る前と→
変わらなかった。

レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
19	34	7	0	0
32%	56%	12%	0%	0%

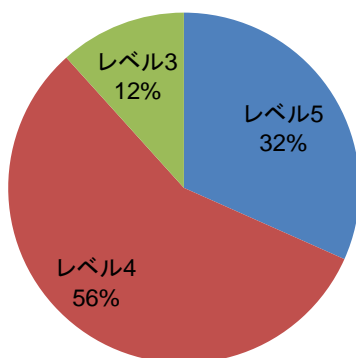


図 A-10 セミナーによるデュアル教育に関する理解深化の程度（東京会場）

(6) 問 6 : 本セミナーにより、デュアル教育を行ってみようと思いましたか。

<福岡会場>

←セミナーに来る前に比べ、
行いたいと思った。

セミナーに来る前と→
変わらなかった。

レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
8	7	4	3	0
36%	32%	18%	14%	0%

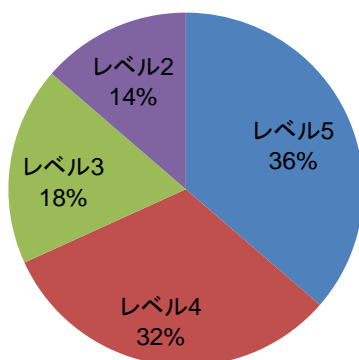


図 A-11 セミナーによるデュアル教育の取組に向けた意欲喚起の程度（福岡会場）

<東京会場>

←セミナーに来る前に比べ、
行いたいと思った。

セミナーに来る前と→
変わらなかった。

レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
16	19	9	2	0
35%	41%	20%	4%	0%

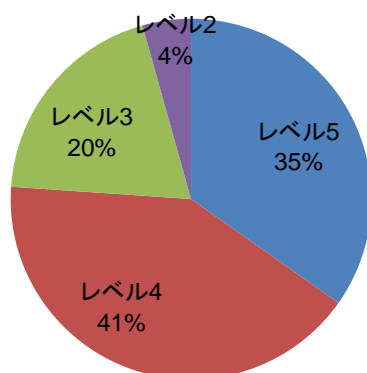


図 A-12 セミナーによるデュアル教育の取組に向けた意欲喚起の程度（東京会場）

(7) 問 7：本日紹介した事例や「分野別共通ガイドライン」「分野別ガイドライン」等の内容の中で、今後、貴校に取り入れたいと思った取り組みや工夫があれば、ご記入ください。

<福岡会場>

取り入れたい内容	回答数	パーセンテージ
評価	6	43%
その他	3	22%
報告会	2	14%
成果ツール	1	7%
全体	1	7%
文書関連	1	7%

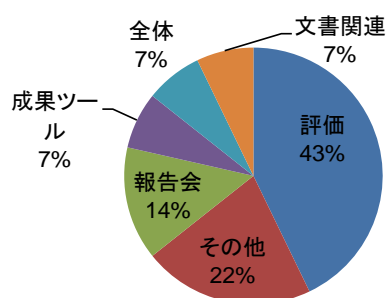


図 A-13 セミナーの内容で今後取り入れたい取組や工夫（福岡会場）

<東京会場>

取り入れたい内容	回答数	パーセンテージ
DP・評価	15	52%
全体	9	31%
その他	5	17%

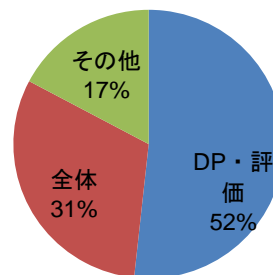


図 A-14 セミナーの内容で今後取り入れたい取組や工夫（東京会場）

(8) 問 8：専修学校において、デュアル教育への理解・関心の増進や普及・定着を進めるには、どのような情報提供や支援が必要だと思いますか。

<福岡会場>

内容	回答数	パーセンテージ
受入企業側へのPR・連携促進	9	53%
教職員向け研修会	4	23%
教育機関の情報交換・事例蓄積	4	24%

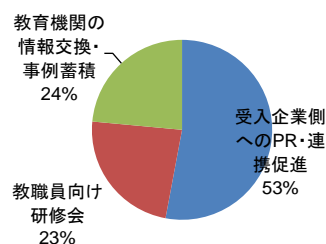


図 A-15 デュアル教育の普及・定着に必要な情報や支援（福岡会場）

<東京会場>

内容	回答数	パーセンテージ
受入企業側へのPR・連携促進	8	24%
教職員向け研修会	8	24%
教育機関の情報交換・事例蓄積	11	34%
その他	6	18%

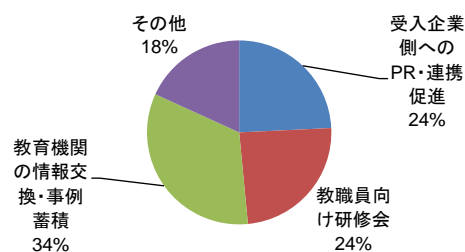


図 A-16 デュアル教育の普及・定着に必要な情報や支援（東京会場）

(9) 問 10 : あなたのご所属について当てはまるものに○をつけてください。

<福岡会場>

選択肢	回答数	回答率
専修学校（役員）※理事、校長等	3	10%
専修学校（教員）※役員以外	11	38%
専修学校（職員）	13	45%
大学	2	7%

図 A-17 セミナー参加者属性（福岡会場）

<東京会場>

選択肢	回答数	回答率
専修学校（役員）※理事、校長等	21	36%
専修学校（教員）※役員以外	20	34%
専修学校（職員）	15	26%
その他	2	4%

※その他：専修学校設置準備室 教員予定者、法人グループ企画室

図 A-18 セミナー参加者属性（東京会場）

(10) 問 11：あなたのご所属部署について、関係の深い分野に○をつけてください。

<福岡会場>

選択肢	回答数
1. IT、ゲーム	7
2. 電気・電子	2
3. 自動車整備	2
4. 土木・建築	2
5. 農業、園芸、動物	1
6. 医療	12
7. 調理、製菓、製パン、栄養	3
8. 理容、美容、エステ	4
9. 保育、幼児教育	7
10. 社会福祉、介護福祉	6
11. 商業実務（経営、経理、観光、秘書）	9
12. 服飾家政	1
13. 文化・教養（デザイン、音楽、語学、公務員）	6
14. その他（具体的に）	3

※その他回答：社会学系・人文学部・就職部

図 A-19 セミナー参加者の所属に関係の深い分野（福岡会場）

<東京会場>

選択肢	回答数
1. IT、ゲーム	7
2. 電気・電子	3
3. 自動車整備	3
4. 土木・建築	2
5. 農業、園芸、動物	2
6. 医療	20
7. 調理、製菓、製パン、栄養	7
8. 理容、美容、エステ	4
9. 保育、幼児教育	12
10. 社会福祉、介護福祉	8
11. 商業実務（経営、経理、観光、秘書）	12
12. 服飾家政	6
13. 文化・教養（デザイン、音楽、語学、公務員）	9
14. その他（具体的に）	3

※その他：スポーツ系、動物、放送・エンタテインメント

図 A-20 セミナー参加者の所属に関係の深い分野（東京会場）

A.3 普及定着ワークショップの参加者アンケート

A.3.1 アンケート票

保育分野におけるデュアル教育の導入に向けてのワークショップセミナー

「専修学校と保育現場で共に学生を育てる～デュアル教育のススメ」アンケート

ワークショップの内容について

問1 各プログラムの内容はいかがでしたか。(各行で当てはまるもの1つに○)

(5. 大変参考になった ～ 1.全く参考にならなかった の5段階でお答えください。)

セミナー形式のプログラム	5	4	3	2	1
ワークショップ形式のプログラム	5	4	3	2	1

問2 総合的にみて、本ワークショップの内容はいかがでしたか。(当てはまるもの1つに○)

大変参考になった	参考になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった
5	4	3	2	1

問3 デュアル教育への理解・関心を高めるという観点から、本ワークショップの改善点等をお答えください(あったらよかったと思う内容等)。

デュアル教育への関心について

問4 本ワークショップに来ていただく前から、デュアル教育について、ご存知でしたか。

(当てはまるもの1つに○)

1	(学校関係者様の場合、)既に自校で行っている。
2	内容まである程度知っていた。
3	名前は聞いたことがあるが、内容までは知らなかった。
4	全く聞いたことがなかった。

問5 本ワークショップにより、デュアル教育について理解が深まりましたか。(当てはまるもの1つに○)

←セミナーに来る前に比べ、よく理解できた	セミナーに来る前と変わらなかった→			
5	4	3	2	1

問6 【問4で2・3・4に○を付けた、学校関係者様にお伺いします。】

本ワークショップにより、デュアル教育の推進方法(行い方)について理解が深まりましたか。

(当てはまるもの1つに○)

←セミナーに来る前に比べ、よく理解できた	セミナーに来る前と変わらなかった→			
5	4	3	2	1

保育分野におけるデュアル教育の導入に向けてのワークショップセミナー

問7 【問4で2・3・4に○を付けた、学校関係者様にお伺いします。】

本ワークショップにより、デュアル教育を行ってみようと思われましたか。(当てはまるもの1つに○)

←セミナーに来る前に比べ、行いたいと思った	セミナーに来る前と変わらなかった→			
5	4	3	2	1

問8 【学校関係者様にお伺いします。】

本日紹介した事例や「保育分野ガイドライン」等の内容の中で、今後、貴校に取り入れたいと思った取り組みや工夫があれば、ご記入ください。

問9 専修学校において、デュアル教育への理解・関心の増進や普及・定着を進めるには、どのような情報提供や支援が必要だと思いますか。

(例：教員向け研修会の実施、デュアル教育の推進事例の蓄積・発信 等)

ご自身について

問10 あなたのご所属機関名をご記入ください。

問11 あなたのご所属について、あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)

1	専修学校（役員）※理事、校長等	5	高等学校
2	専修学校（教員）※役員以外	6	大学
3	専修学校（職員）	7	その他
4	就学前教育機関・小中高等学校		(具体的に：)

その他

問12 本セミナーの感想や、ご要望等ございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。出口でスタッフにお渡しください。

A.3.2 アンケート結果

(1) 問 1：各プログラムの内容はいかがでしたか。

表 A-1 ワークショップにおける各プログラムの満足度

	大変参考になった	参考になった	どちらとも言えない	参考にならなかった	全く参考にならなかった
セミナー形式のプログラム	8	0	0	0	0
ワークショップ形式のプログラム	8	0	0	0	0

(2) 問 2：総合的にみて、本ワークショップの内容はいかがでしたか。

表 A-2 ワークショップ全体の満足度

大変参考になった	参考になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった
6	2	0	0	0

(3) 問 4：本ワークショップに来ていただく前から、デュアル教育について、ご存知でしたか。

表 A-3 デュアル教育の認知度

(学校関係者様の場合、)既に自校で行っている。	0
内容まである程度知っていた。	2
名前は聞いたことがあるが、内容までは知らなかった。	5
全く聞いたことがなかった。	1

(4) 問 5 : 本ワークショップにより、デュアル教育について理解が深まりましたか。

表 A-4 ワークショップによるデュアル教育に関する理解深化の程度

←セミナーに来る前に比べ、よく理解できた					セミナーに来る前と変わらなかった→				
7	1	0	0	0					

(5) 問 6 : 本ワークショップにより、デュアル教育の推進方法（行い方）について理解が深まりましたか。

表 A-5 デュアル教育推進方法の理解深化の程度

←セミナーに来る前に比べ、よく理解できた					セミナーに来る前と変わらなかった→				
5	3	0	0	0					

(6) 問 7 : 本ワークショップにより、デュアル教育を行ってみようと思われましたか。

表 A-6 ワークショップによるデュアル教育の取組に向けた意欲喚起の程度

←セミナーに来る前に比べ、行いたいと思った					セミナーに来る前と変わらなかった→				
3	4	1	0	0					

(7) 問 10 : あなたのご所属機関名をご記入ください。

表 A-7 ワークショップ参加者の所属機関

所属機関	参加校数
専門学校	6校
大学	1校（海外）

2019年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

分野共通の産学連携教育体制の確立に向けた調査研究

報告書 付録 2020年3月

株式会社 三菱総合研究所
科学・安全事業本部

TEL (03) 6858-3586